

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	生き生きいくさか 農業所得向上応援プログラム事業
事業主体 (連絡先)	生坂村 (0263-69-3112)
事業区分	(6)イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	6,411,017円 (うち支援金: 4,834,000円)

事業内容

1. 通年農産物が栽培できる体制を構築するため希望する集落営農組織及び地元住民団体に対してビニールハウスの貸し付けを行なった。
2. 農産物の高付加価値化や作業の効率化を図るため、土壌診断及び土壌改良を行なった。また、分析結果を基に村民を対象とした土づくり講習会を開催した。
3. 松本農業改良普及センターや農協の協力を得て各地区にあった農産物の研究、試験栽培を行なった。定期的に栽培講習会を開催したとともにハウス内の温度管理等の指導も行った。



【土づくり講習会】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①集落営農組織や地元住民団体に募集をかけたところ、6地区(小立野、日岐、上生坂、草尾、下生坂、大日向)から応募があり、ビニールハウスの設置を行なった。
- ②対象ほ場の土壌診断及び土壌改良を行なった。土壌診断を行なったことで不足している成分や過剰に含みすぎている成分が明らかになり、効率的に土壌改良することができた。「何も入れないことも土づくり」となる場合もあることが分かり、土壌診断の重要性を再認識できた。
- ③平均気温等の参考資料を基に有識者とともに栽培可能な作物の研究及び試験栽培を行なった。取組2年目に向けて改善点が具体的になったため、次年度に繋がる1年となった。

【目標・ねらい】

- ①通年農産物栽培が施設園芸農業の基盤整備
- ②土壌に関する基礎知識の向上
- ③各地区にあった農産物の研究

※自己評価【B】

【理由】

通年、農産物栽培が可能な基盤整備が行なえたことや土づくり講習会の開催により土壌に関する理解が高められたため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・今年度各地区に貸し付けを行なったビニールハウスを最大限に活用して、引き続き、通年農産物を栽培する体制を構築していく。
- ・土壌診断については、継続して行ない、肥料を入れた際の反応や温度等による生育要因を探り、高品質な農産物栽培を目指す。
- ・収穫された農産物を生産者自らが販売するイベントの開催するとともにメディアを活用して認知度向上を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある